

平成 29 年第 3 回定例会

東京オリンピック・パラリンピック・ラグビーW 杯特別委員会

平成 29 年 12 月 14 日

渡辺(ひ)委員

私からは大きく 2 点質問させていただきたいと思います。まず質問させていただくのは、先ほど当委員会の中でも質疑がありましたが、今回の説明資料の中で、台風 21 号の被害の状況及びその対応ということで質疑がありました。

まず、これに関連をして、台風だけではなくて、特に今回セーリングは江の島の開催ということもあって、津波被害等の自然災害の対応についての備えについて何点か質問したいと思います。

私も藤沢選出でありますので、今回の被害についてはショッキングな報道を聞いて非常に残念だなと思いつつも、速やかに対応していただいた。さらには、ヨットセーリング競技の施設等についてはそれほど大きな被害は出なかったということで安どしたわけではありますが、実際は江の島の場合は藤沢市が管轄する海側の洞窟の方の被害がかなり大きくて、非常に地域の方々はこの台風 21 号の被害について関連をして速やかな行動をとっているわけですが、私の方からは、今言ったように、それ以外の自然災害も含めた質問をまずさせていただきたいと思います。

はじめに確認しておきたいのですが、セーリング会場となる湘南港、これを含む江の島では特に地震による津波が発生した場合に、どのような対応を具体的にするのか、避難するような形になるのか確認したいと思います。

セーリング課長

津波が発生したときに、湘南港を含みます江の島の避難でございますが、藤沢市が地域防災計画というものを定めまして、その中に規定がされてございます。これによりまして、まずは高台に避難することになっておりまして、それが困難な場合には、現在、湘南港の中に津波避難デッキが設けられておりますが、そこに避難することと定められております。

渡辺(ひ)委員

具体的なことは藤沢市が避難の様々な計画を持っているということは認識しました。

いずれにしても、今日の説明資料にも書いてありますが、今後組織委員会と様々なことを協議していくということになります。しっかり藤沢市とも協議していただいて、実際に今言った高台、デッキ、これだけで本当に避難ができるのかなという危惧はあるわけです。というのは、それだけでなく夏海水浴シーズンで多くの方々がいる、そういうタイミング、その中でそれを想定して藤沢市は避難計画を作っています。そこにプラスアルファでセーリング競技が開催される、その観客が来る、そういった意味とすると、あのエリアにいらっしゃる方が通常よりも多い形での避難となるので、本当に藤沢市が持っている計画だけでいいのかどうか、更にバージョンアップというのか、多少補完をしなければいけないのか、そういう課題もあると思うのです。これは是非よろしくお願いをしたいと思います。

次に、今は津波の話をし少し聞きましたが、例年県の方では関係機関と合同でテ

ロ対策の訓練を行っておりますが、今年度は江の島で実施したと聞いておりますが、どのようなことを行ったのか、具体的に御説明願います。

セーリング課長

県では、ラグビーワールドカップ、それから2020年東京大会を見据えて、国、自治体、警察、消防などの関係機関と連携をいたしまして、大規模なテロなどが発生した場合を想定した国民保護実働訓練を平成27年度から行っているところでございます。今年度は、委員御指摘のとおり、オリンピックのセーリング会場となる江の島周辺でこの訓練を実施いたしました。内容でございますが、小田急の片瀬江ノ島駅で爆破事案が発生したと、こういう想定で乗客の避難誘導、それから負傷者の救出・救助、負傷者の応急救護、それから車両による救急搬送、そして医療救護などを行いました。

次に、江の島ヨットハーバーで化学剤散布事案が発生したという想定で、来場者の避難誘導、それから化学剤の検知、負傷者の救出・救助、除染、それから応急救護、車両や航空機、これはヘリコプターですが、こういったものによる救急搬送、不審物の処理、こういった訓練を実施したところでございます。

渡辺(ひ)委員

そういう意味では、津波については市の策定している計画を基にして対応していく、さらには、テロ等については今訓練も含めてやっているという御説明でした。

その上で、更に私が少し危惧するのは、今でもある程度江の島には観光客として外国人の方々がおられますが、セーリング競技が行われると、特に日本の方もそうですが、特に海外の方々が興味を持たれている競技だということもあって、外国人の方がかなり多く来られるということが想定されます。

そうすると、今御説明があったテロの訓練も、避難誘導の計画も、そのときに多く来られる言葉の分からない外国人対応、このこともしっかりとやっておかないと誘導ができないのだと思うのですが、その対策は何か考えていらっしゃいますか。

セーリング課長

委員御指摘のとおり、日本語が分からない外国の方を安全に誘導することは大変重要な課題であるというふうに認識しております。来年9月には江の島でワールドカップが開催されますし、また、事前の練習ということでセーリングの海外チームの方も江の島にいらっしゃるということが想定されますので、例えば緊急時に英語による放送やそれから避難経路を示す際、英語での掲示や、それから大会のときの運営要員が英語で誘導できるようにするための事前の研修、こういったものを緊急時の備えとして実施できないか検討していきたいと考えております。

渡辺(ひ)委員

ある意味ではすごく大事だと思うのです。今回台風があつて、ああいう被害が出たときに、逆に言えばそういう別のことに対する注意喚起というのが実際あったのではないかと思います。今言われたような外国人対応って非常に難しい対応だと思いますので、是非お願いしたいと思うのです。

繰り返しになりますが、例えば冒頭の誘導についても、先ほど言った高台、デッキ、高台というのは島の上だと思いますが、本当に競技者がいて観光客がい

て観戦者がいて、高台でどれだけ人数が許容できるのか、デッキといっても、具体的なデッキというのはヨットハーバーのハウスの上の屋上ですね。砂浜の方々は、一部新江ノ島水族館だとか、あと津波避難タワーに逃げると。あとは、どちらかというとな津波から遠ざかると、要はいろんなことが想定されていて大変だと思うのです。

だから、そういうこともちゃんと想定してほしいと思いますし、テロの場合もそうです。それには、神奈川県の場合は津波が起きたときに、新江ノ島水族館の上などでオレンジフラッグを振るわけです。ただ、競技中にフラッグ振られても、何のフラッグだかよく分からないと。セーリング競技用のフラッグが振られているのかなとか、応援するためのフラッグが振られているのかなとか、要はフラッグの意味すら分からなければ様々なことに支障を来すというようなこともありますので、しっかり対応してほしいと思うのです。

さらにもう少し言うと、セーリング競技で来られる競技者だとか観客の方々というのは、例えば地震だとか津波だとか、そういう経験値だとか、若しくは自分の国でそういうことが発生をしていないエリアの方々が来られるというケースも多々あると思うのです。そうすると、地震があつたら津波が起きるのだという、そういう認識すらない方々もいらっしゃると思うので、そういう方々に対する周知だとか対応は、もう少し詳しくどう考えていらっしゃるのか。

セーリング課長

地震というと日本人には心得ているものがあるかと思いますが、やはりなじみのない国の選手、皆様にはそういった知識がないということで、委員御指摘のとおりしっかりと対応が求められるというふうに思います。

例えばワールドカップに参加する選手たちに対しまして、地震が発生したときにはまず身を守ること、それから津波が発生したときにはまず高台に逃げることで、こういった安全を確保する行動について、しっかりと理解をしてもらう必要があるというふうに考えています。

そこで、大会にエントリーをした選手などに、災害が起こったときの安全確保行動を記載したパンフレットを配布するなど、こういった周知にしっかりと取り組んでまいります。また、大会のときのみならず、海外チームが事前練習を行うときにも、様々な機会を捉えまして、こういった周知をしっかりとやっていきたいと考えております。

渡辺(ひ)委員

分かりました。今何点か聞きましたが、最後に、今回は特にセーリングの場合はワールドカップがあるわけですから、プレプレ、プレ、さらには今答弁があつたように様々な練習の機会を捉えて、そういう体制整備の周知徹底ができるのだと思いますが、さらには先ほどのテロの問題、全体的に含めて今後県としてこのオリンピックのセーリング競技についてどういう危機管理体制をつくっていくのか、御答弁をお願いしたい。

セーリング課長

今後、ワールドカップもございますし、また、2020年には本大会も開かれるという状況でございます。本大会につきましても、組織委員会にもこの地元の状況をしっかりと情報提供を行いまして、綿密に連携を図って対応を考えていきたいと思っております。

来年からワールドカップが開催されますので、このワールドカップでの安全対策を実施した、こういった経験を通じて得られた様々な教訓というものを2020年の大会の運営に生かしていきたいと考えております。

渡辺(ひ)委員

主体は実行委員会とか組織委員会になるのですが、やっぱり地元を知っている、要は時系列的な江の島エリアの変化を知っているのは県であり藤沢市だと思いますので、しっかりその辺と情報を共有しながら対策を強化していただきたいと思います。

あわせて、今回、このセーリング競技に併せて江の島の方々、地元の方々が非常に喜んでるのは、オリンピックが終わって、やってよかったな、いろんな迷惑事例もあるが協力してよかったなというのは、一つは横文字で言うところレガシーだと思うのですね。その意味では、今回江ノ島大橋を3車線化していただいて、今でも夏場大混雑している134号から島へ向かう、更には中の駐車場を整備していただいて、要は終わった後の観光振興、渋滞緩和につながるという意味では喜んでるわけです。

そういう関連で言わせてもらおうと、今言った災害対策も、特に江の島だけではありませんが、近隣も含めて、例えば避難ビルの指定の問題だとか、要は避難誘導路の整備だとか、様々なことをこれまでもやってきて、まだやっていかなければいけない課題も幾つかあるわけです。やっぱりそういうものもこういう機会を捉えて促進していただいて、万全な体制もハード面でもソフト面でもしっかりつくっていただいて、やっぱりオリンピックに協力してよかった、開催してよかったという体制、さらには、世界で一番安全な、要は日本での開催、各国の方々が評価していただくような体制を是非整備促進をしていただきたいと思います。

もう一つは、この委員会で6月、9月と委員会審議をやってきました。そんな中で、私がちょっと気になっているのは、私は地元藤沢なので、江の島のことを、セーリングのことを一生懸命この委員会でやっていただくのは非常にうれしいことだし、県として一時的には非常に重たい課題、役割なので、その必要があるかなと思います。さらには、ラグビーについてしっかりやっていくということも重要なことだということは前提として評価していきたいと思います。しかしながら、県内でのオリンピックの開催ということをつまえたときには、あとサッカーと野球とソフトボールの開催があるわけです。しかしながら、今までのこの委員会の資料の中にそのことが一切出ていない。一切報告もないのは、私の認識としては、これはちょっといかがなものかなと思うわけです。

当然施設を持っているのが横浜市だとか、また競技の認知度が高いとか、いろんなことがあって、機運醸成はあまりやらなくてもいいとかいうようなこともあるのかもしれませんが、サッカー、野球、ソフトボールについての県の取組がどうなっているのか、この場を借りて一回質問をしておかないと、ちょっと不安な部分も感じるので何点か質問させていただきたいと思うのです。

例えば、野球については横浜球場を使うという話ですが、今、横浜球場を運営しているベイスターズは、要はあそこをボールパークと捉えて、あの横浜エリア全体を面で開発して誘客をしていこうという計画を打ち出しています。こうなってくると、その中に神奈川県施設の幾つか入っているわけです。とい

うことであれば、やっぱり面の中に神奈川県もあるという意味からしても、トータルで例えば野球だったら野球をどうやって盛り上げていくかということもやっぱり県の立場としても役割分担、そしてやっていくべきだと思うのです。

そんなことを踏まえながら質問をしたいのですが、まず、野球、ソフトボールとサッカーですが、横浜スタジアムと横浜国際競技場、これはどのような経緯で決定したか最初に確認しておきたいと思います。

オリンピック・パラリンピック課長

野球、ソフトボールでございますが、サーフィンや空手とともに組織委員会が国際オリンピック委員会に提案し、昨年8月に承認された追加競技の一つでございます。その会場につきましても同様に組織委員会が提案し、昨年12月に承認されております。サッカーにつきましても、平成25年になりますが、IOCに提出した立候補ファイルに横浜国際総合競技場が既に記載されておまして、その経緯は東京都が横浜を含め5会場の所有自治体の同意を得て選ばれたものと伺っております。

渡辺(ひ)委員

例えば、2019年のラグビーワールドカップも全国でやられ、その中で神奈川県でもやることが決まり、その上で神奈川県がどうやるかという話をずっとこの委員会で審議していますが、野球、ソフトボールとサッカーは、横浜スタジアムと横浜国際総合競技場で、全体的な競技の中でどのような試合をここで実施するのか確認をします。

オリンピック・パラリンピック課長

野球、ソフトボールでございますが、球場としては福島あづま球場と横浜スタジアムの2会場がございます。横浜スタジアムの方が主会場となっております。サッカーの方は、新国立競技場のほか、東京スタジアムや札幌ドーム、そういった地方の会場がございます。横浜国際総合競技場は地方会場のうちのひとつとなっております。

渡辺(ひ)委員

そういう位置付けの中でも、やっぱりいろんなことを考えなければいけないと思うし、特に今言った野球はメイン会場が横浜だということになれば、やっぱりその機を捉えて、この委員会とは関係ないかもしれませんが、経済の活性化だとか、様々な問題につなげていかなければいけないのではないかなという気はするのです。概略は分かりましたが、この横浜スタジアムと横浜国際競技場における競技の実施に関する役割分担はどんな形になっていますか。

オリンピック・パラリンピック課長

東京大会の役割分担でございますが、今年5月31日に東京都、組織委員会、国、関係自治体で、恒久的改修は関係自治体、それから仮設や運営は組織委員会等という合意、いわゆる大枠合意がなされております。横浜スタジアムや横浜国際総合競技場の両会場につきましても、この大枠合意に基づいて進められているところでございます。

渡辺(ひ)委員

大枠合意というのは、先ほど冒頭私が説明したように、この委員会にまだその関係の、サッカー、野球、ソフトボール関係の報告はまだないのですが、それはまだ公開できないという意味なのですか。

セーリング課長

今の役割分担、経費負担の大枠合意、これは5月31日に東京都、組織委員会、国、それから関係自治体の中で合意をされたものですが、これにつきましてはホームページでも公開されているものです。

渡辺(ひ)委員

ホームページに公開されていて、我々委員会に全く報告がない、それっていかなものかなと思うが分かりました。

次に進めますが、現在両会場に関して、具体的にはどんな準備が今進められているか、何か情報があれば教えてください。

オリンピック・パラリンピック課長

現在、会場所在自治体と東京都、国、それから組織委員会で構成します関係自治体等連絡協議会の中の作業チームにおきまして、横浜市とともに大会に向けて必要となりますインフラを含めた環境整備や大会関係の輸送業務などの洗い出し作業を進めております。こうした作業の中で必要とされた施設整備として、横浜スタジアムではエレベーターの設置などのバリアフリー化に加えて、客席を6,000席増やすための改修を行っておりまして、横浜国際総合競技場では前年の2019年に開催されるラグビーワールドカップ2019と東京大会を見据えて照明設備などの改修を、それぞれの施設管理者が進めているところでございます。

渡辺(ひ)委員

分かりました。そこまで話が進んでおれば、その話が我々にも伝わってもいいのかなと思いつつ、ただ、横浜国際総合競技場についてはラグビーの関連もあるので、会場の運営のノウハウや施設整備は同時並行でいくのだと思うので、私は個人的には半分は安心をしますが、野球会場の横浜スタジアムについては単独の整備をしなければいけないのだと思う。ここはちょっと気になるところなのですが、この横浜スタジアムで野球をメインでやるということになったときに、甲子園の予選というか、神奈川県決勝の時期に重なると思うのですが、たしか他の会派からも質問が以前あったかと思いますが、そういう意味からすると、しっかり県も絡んで、その運営だとか、またオリンピックとは別に高校野球との絡みの調整だとかする必要はあると思うのですが、その辺の考え方を伺いたい。

オリンピック・パラリンピック課長

東京大会の競技会場になったことによりまして、高校野球をはじめとした例年横浜スタジアムで開催されてきた大会等に影響が生じてきます。その影響はどの程度になるかは、横浜スタジアムをどの程度の期間、組織委員会が押さえるかによって大きく変わってきますので、本県から組織委員会に対しましては、横浜スタジアムを利用している団体の意見をきちんと吸い上げて調整を図っていくよう働き掛けを行っているところでございます。

渡辺(ひ)委員

何度も言うようですが、そういう調整を働きかけているのであれば、オリ・パラを協議するこの特別委員会の中に、やっぱり途中経過も含めて、要は県の立場、県の責務が重たいのは確かにセーリング、ラグビーなのかもしれませんが、やっぱりしていただくべきだと私は思います。そのことも含めて、県民の関心

であり、やはり機運の醸成、もっと言うと、機運の情勢というのは例えばラグビーだけでやる、要はセーリングだけでやる、これも大事ですが、パッケージでワールドカップ、ここではオリ・パラ、これをセットでやるということも非常にやっぱり相乗効果が出てくると思うのです。それには、そちらの部分の御報告が今までないというのはいかがなものかなと思いつつ、今御答弁があったような状況がまずあるのであれば、それも踏まえた御報告は是非お願いをしたいなと思うのです。

その上で、今言った野球、ソフトボール、サッカーについては、横浜市が地方行政としては主でやられるとは思いますが、県としてもやはり今言ったような機運醸成の意味からすると、しっかり関わって、横浜だけではできないこと、県がやるべきこと等々もあると思うのですが、今後どのように取り組んでいくのか御答弁願います。

オリンピック・パラリンピック課長

東京大会をオール神奈川で盛り上げていくために、本県では野球、ソフトボール、サッカーを含めて大会全体の機運醸成を図っております。今年9月に開催しましたオリンピック・パラリンピックフラッグの歓迎イベントでございますが、アテネ大会の野球競技で銅メダルを獲得された三浦大輔さんにフラッグツアーアンバサダーとしてお越しいただきました。また、10月28日には辻堂で1,000日前イベントを開催しましたが、今後行います同様のイベントで、野球、ソフトボールやサッカーについて関係者の方を呼んでステージに上がっていただいたり、県内で開催する競技のPRを行ったりと、機会を捉えて取り組んでまいりたいと思います。

また、昨年、官民一体の推進組織として立ち上げましたラグビー・オリパラ神奈川応援団を通して、両競技の関係の方々も含めて、企業や関係団体、市町村の皆様と力を合わせて全県を挙げて盛り上げてまいりたいと考えております。

渡辺(ひ)委員

分かりました。今、御答弁をしたような姿勢でしっかりお願いをしたいと思いますが、やはり横浜に任せるばかりではなくて、横浜と協力してやっていくべきだと思います。こんな絶好なチャンスはないわけです。ラグビーをやって、オリンピックをやって、更にはその機運醸成する。例えばサッカー、ソフトボール、野球ということで見ても、県内にはプロチームがあって、今御説明あったプロの方々が機運醸成のために参加してくれているわけですから、そういうものをうまく捉えながら、ほかの競技の、セーリングやラグビーへの相乗効果も含めてしっかり取り組んでいただきたいと思います。それには横浜と一緒に取り組んでいく必要があると思いますが、最後にその点どのような決意なのか聞きたいと思います。

オリンピック・パラリンピック課長

横浜市とは、これまでもお互いのイベントをそれぞれのホームページで紹介したり、今年10月に辻堂で実施しました1,000日前イベントでは、横浜市と連携して野球、ソフトボール、サッカーの横浜市が作成したパンフレットを配布したりといった取組を行ってきました。また、逆も横浜のイベントにおいてもセーリングのパネル展示や我々の1,000日前イベントのチラシ配布などを行っております。

先ほど話しましたフラッグ歓迎イベントでも、横浜市、藤沢市と連携した取組を行っております。今後も、横浜市との連携を更に密にして、2020年に向けて機運醸成の取組を進めてまいりたいと思います。

渡辺(ひ)委員

是非そういう取組をするとともに、当委員会にもそういう御報告を頂きたいなと思いますし、もう少し細かいことを言うと、キャンプ誘致の話がラグビーとオリンピック云々のセーリングだとかの関連ではずっと資料もあります。では、ソフトボール、サッカー、野球でキャンプ誘致についてはどういう取組があるのか、時間の関係であえて質問しませんが、そういうものだってしっかりやっておくべきだと思いますし、開催する横浜スタジアムあるいは横浜国際総合競技場という立地を見れば、逆に言えばキャンプの誘致もしやすいようなことだと思うし、特に野球についてはメインスタジアムが横浜スタジアムですから、特にキャンプ誘致なんかはやれる環境にあるのではないかと思いますので、その辺もしっかり、取り組んでいるのかもしれませんが、御報告も頂きたいということ要望させていただいて私の質問を終わります。